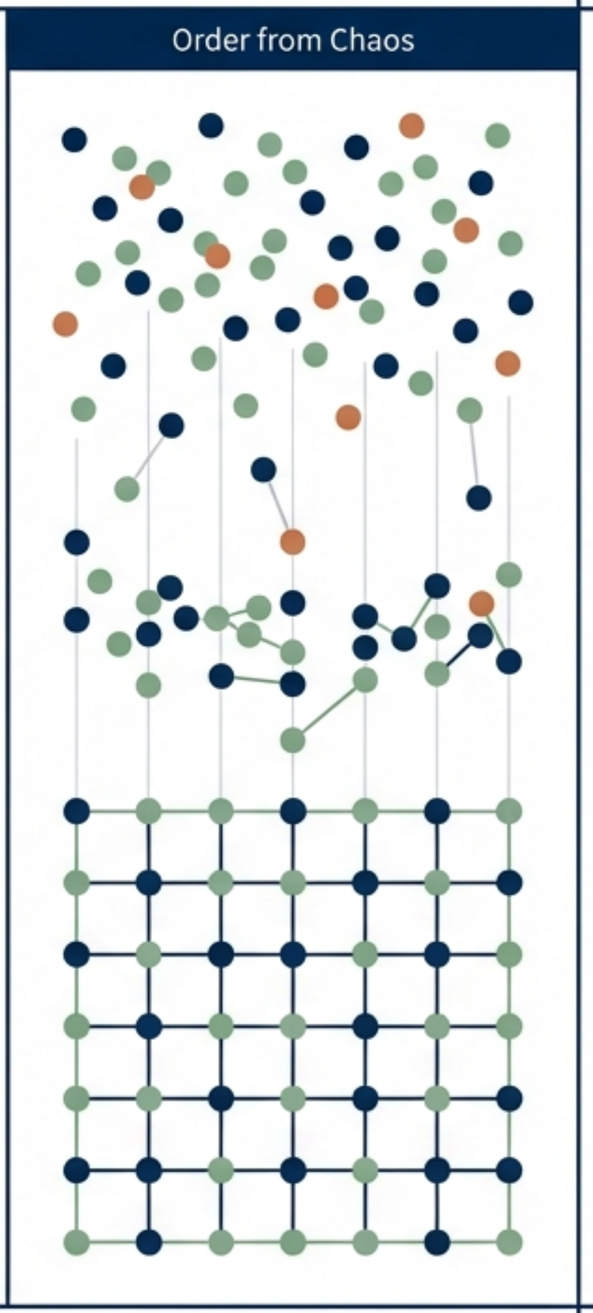
身体拘束適正化と実践：ゼロへの取り組み

理念を現場の動きに変える「平時の運用設計」ガイド



カテゴリH：運営・マネジメント

対象：管理者 / サービス管理責任者 / 現場リーダー

NotebookLM

緊急時の判断力は、平時の準備量で決まる



Standardization

定義と判断基準の統一



Design

代替支援を事前に設計



Verification

事後検証で再発予防

精神論ではなく、個人の判断に依存しない組織的な「仕組み」への転換が必要です。

NotebookLM

現場で判断がブレる3つの構造的要因

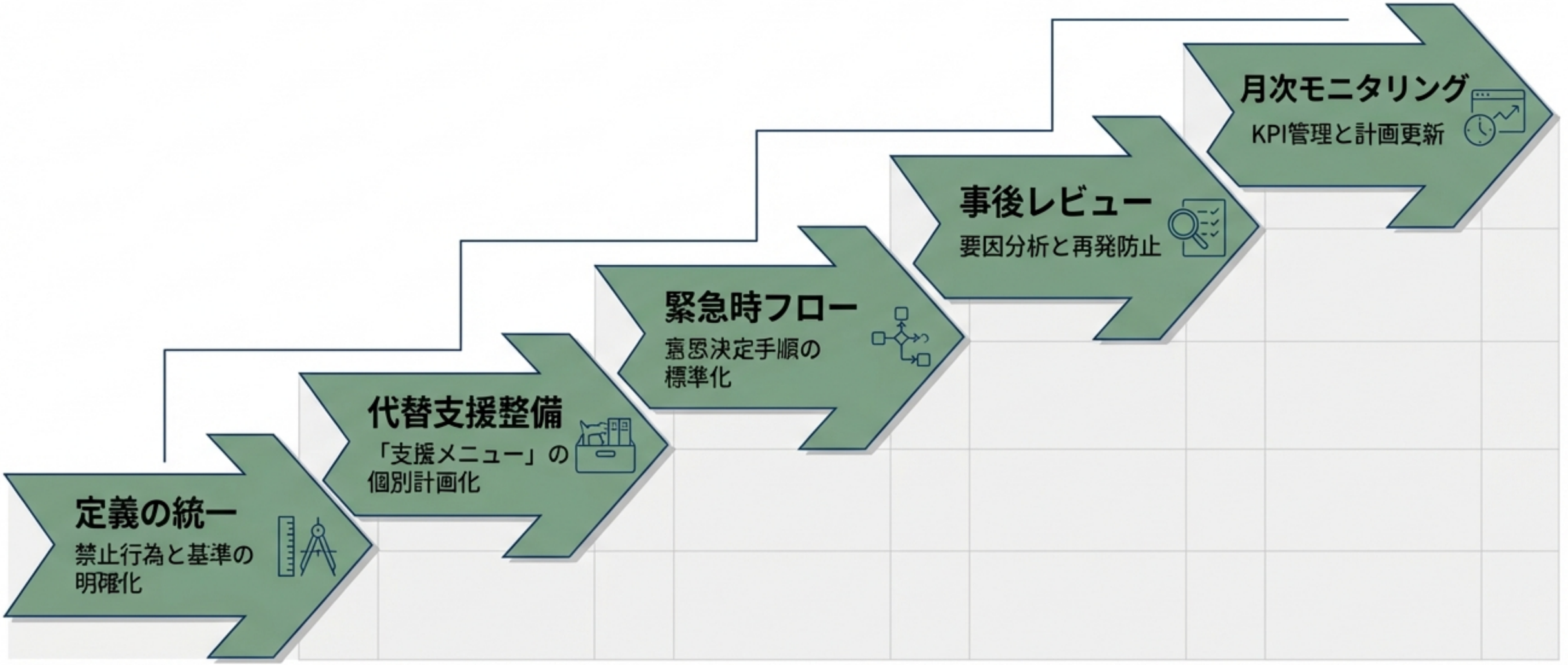


リスクが高まる環境

高刺激環境 / 人員逼迫時 / 夜間・休日対応

NotebookLM

身体拘束ゼロ化に向けた5つの実装ステップ



精神論ではなく、個人の判断に依存しない組織的な「仕組み」への転換が必要です。

NotebookLM

Step 1 - 判断基準の統一：迷いをなくす共通言語



身体拘束の3要件

1. 切迫性（Urgency）
   - 生命・身体の危険が著しい
2. 非代替性（Non-substitutability）
   - 他に方法がない
3. 一時性（Temporariness）
   - 必要最低限の時間

具体的アクション

「禁止行為」を具体的に明文化し、全スタッフが識別できるようにする。

→ 推奨：ケーススタディ（演習）による認識のすり合わせ。

NotebookLM

Step 2 - 代替支援の整備：「拘束しない選択肢」を増やす

環境調整 (Environment)



- 刺激低減 (Reducing Stimuli)
- 導線分離 (Traffic Zoning)

予兆対応 (Pre-emption)



- 休憩誘導 (Break Guidance)
- 担当交代 (Staff Swap)

コミュニケーション支援

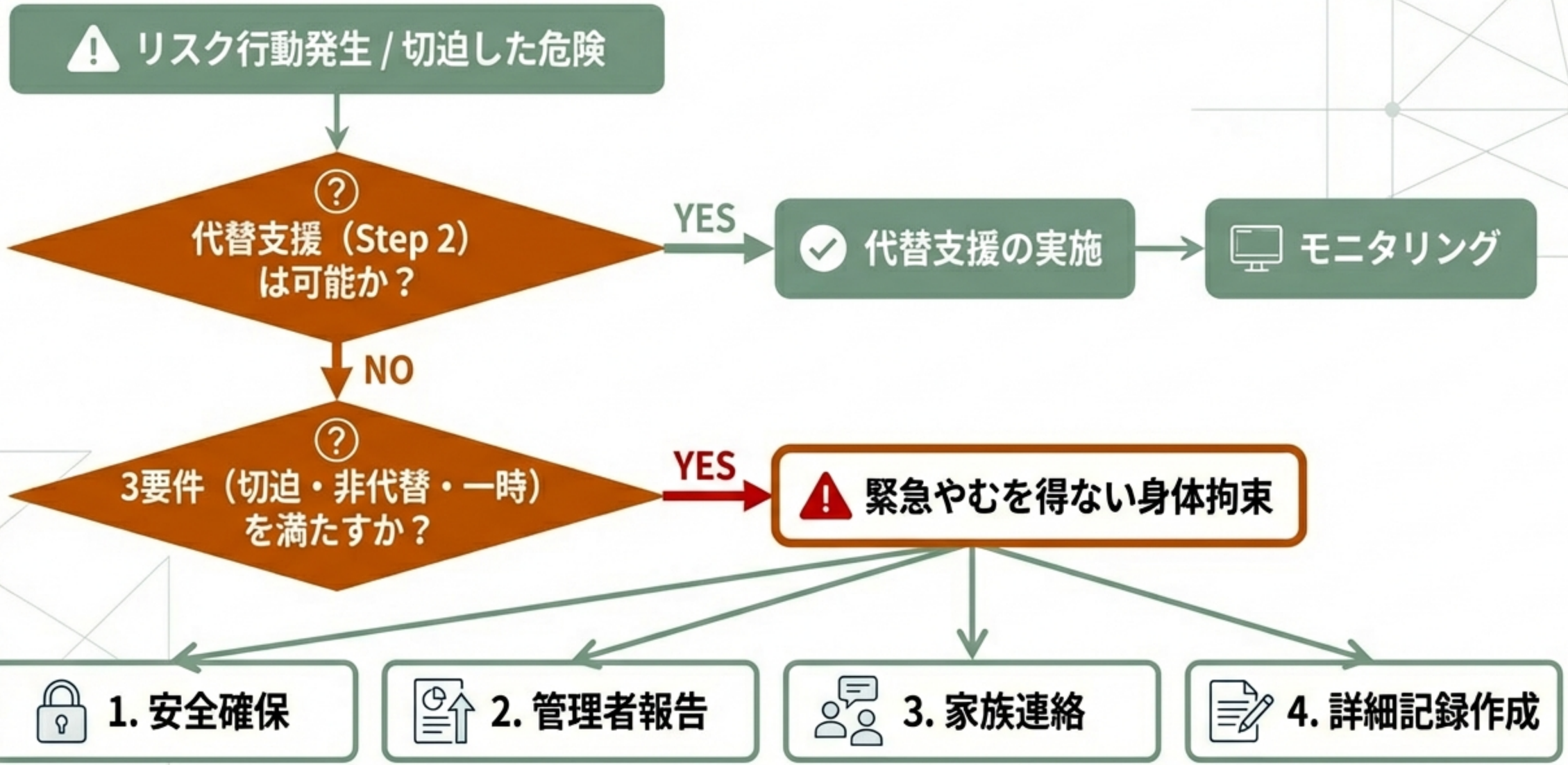


- 短文指示 (Short Commands)
- 視覚手がかり (Visual Cues)

重要：これらは緊急時ではなく、平時に「個別支援計画」へ記載しておく必要があります。

NotebookLM

Step 3 - 緊急時フロー：個人判断から組織対応へ

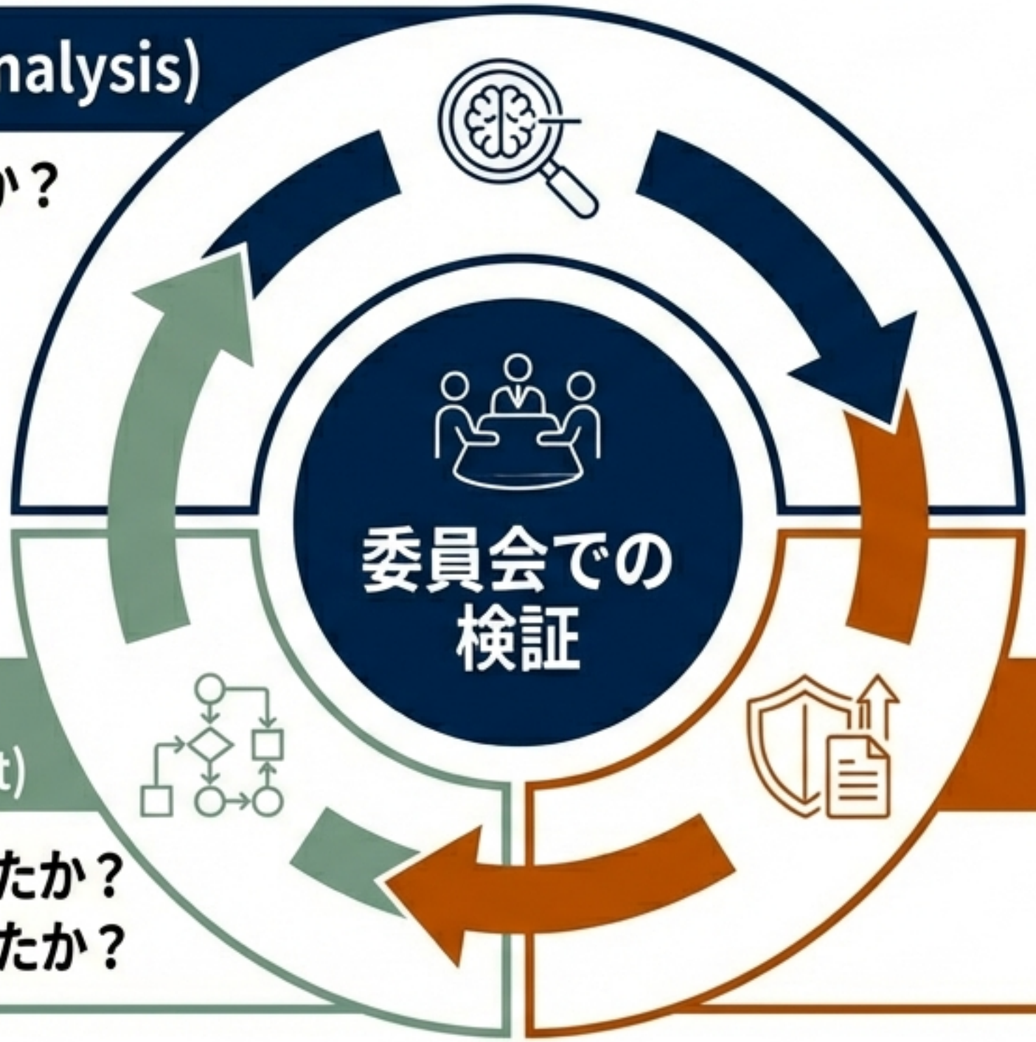


NotebookLM

Step 4 - 事後レビュー：再発を防ぐ学習の場

発生要因 (Trigger Analysis)

なぜその行動が起きたか？
（背景分析）



代替可能性
(Alternative Assessment)

支援メニューは適切だったか？
支援メニューは適切だったか？

再発防止策
(Prevention)

個別支援計画の更新
個別支援計画の更新

身体拘束は「患者の行動」ではなく「システムの不具合」として扱い、プロセスを修正する

NotebookLM

Step 5 - 運用の見える化：感情論ではなく数値で管理する

Mock Dashboard

代替支援活用率



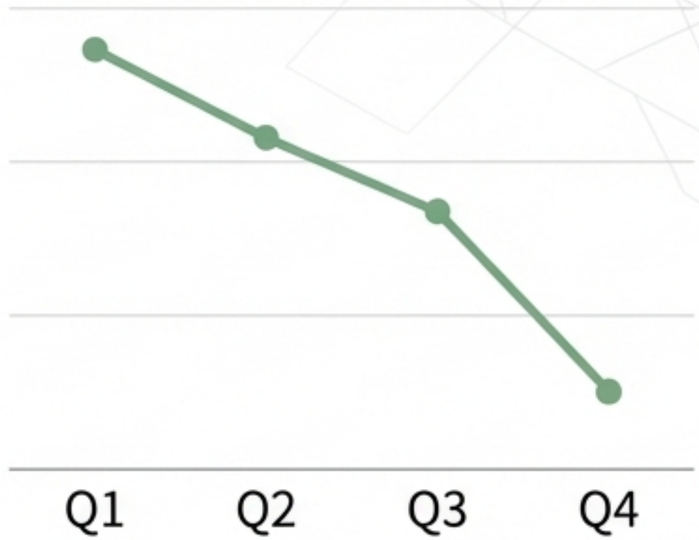
Regular Noto Sans JP
目標：90%以上

事後レビュー完了率



Noto Sans JP
目標：100%（期限内完了）

事案低減率



Noto Noto Sans JP
目標：前四半期比改善

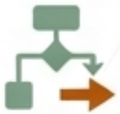
NotebookLM

現場マネジメント用 品質チェックリスト

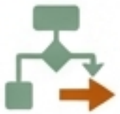
- [ ] **判断基準の文書化**
  禁止行為と基準は明文化されているか



- [ ] **代替支援手順の個別計画反映**
  個別の代替策が計画書にあるか



- [ ] **緊急時フローの周知**
  全スタッフが手順を知っているか



- [ ] **発生記録と事後レビューの保存**
  検証プロセスは機能しているか



- [ ] **月次モニタリングの実施**
  数値による進捗確認を行っているか



© Copyright 2022. a operational consulting. all tin the same style.

NotebookLM

実践事例：AA事業所の変化

Before

課題：
緊急対応が個人の勘に依存

結果：
高ストレス・頻繁な身体拘束

After

実施策：
- 判断基準シートの配布
- 代替メニューの個別計画化
- 月次レビュー会議

成果：
代替支援増・拘束事案減

成功要因：「緊急時の判断を、平時の訓練で標準化した」

NotebookLM

よくある失敗と回避策

定義共有不足	→	ケース演習で判断をチューニングする
代替案の準備不足	→	平時に個別手順を整備する（即興禁止）
事後検証をしない	→	レビューを義務化し再発を防ぐ

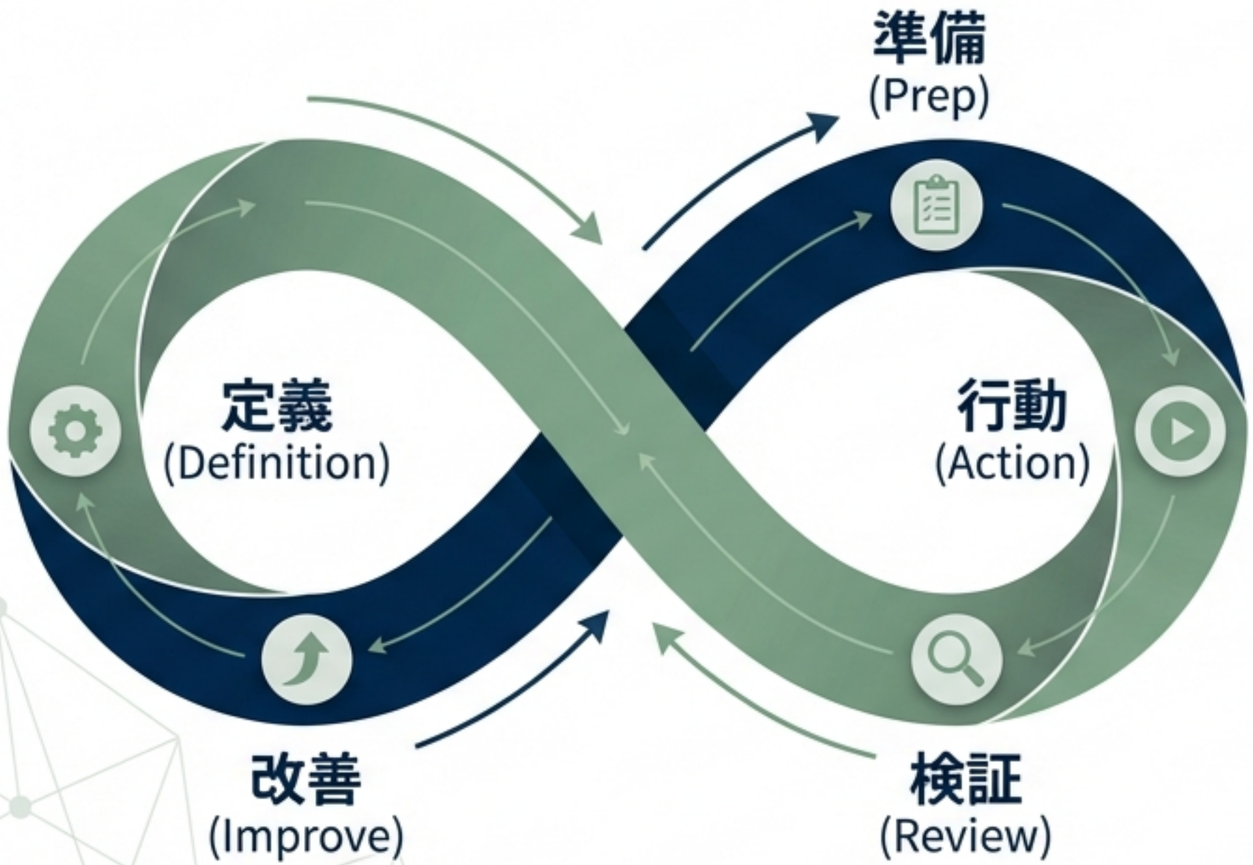
Q: 緊急時対応と拘束ゼロは両立できるか？

A: YES. 代替支援の準備があれば、安全とゼロは両立します。

© Copyright 2022. a operational consulting. all tin the same style.

NotebookLM

結論：仕組みで支える身体拘束ゼロ



身体拘束ゼロは、理念だけでは達成できません。

定義統一、代替支援、事後検証を「システム」として回し続けることが必要です。

まずは「代替支援メニュー」の明文化から始めましょう。

© Copyright 2022. a operational consulting. all in the same style.

NotebookLM